科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年期	単位数
基礎英語１	英会話に必要な基礎を固める	田島　樹里奈	１年次前期	1

科目区分	基礎	キーワード	シンプルな日常英会話、英文法基礎、語彙力強化

ディプロマポリシーとの対応	1.　時代や社会の要請に対応できる能力
カリキュラムポリシーとの対応	1.　一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける
事前に受講するとよい科目	特になし
オフィスアワー	月・火・土（時間は事前に相談して下さい）

講義の目的	本授業では、日常生活で使えるシンプルなフレーズを幅広く学びながら、実社会で必要な英会話能力を身につけることを目的とする。具体的には、英会話を理解するために必要な語彙量を増やし、最低限の文法事項を定着させる。また、リスニングと発話を繰り返しながら、日常の英会話に必要な基礎力を身につけていく。
到達目標	⑴ 複数回聞けば、内容の要点を把握できる程度のリスニング力を身につける。 ⑵ 基本的な英単語を習得し、簡単な会話で使うことができるようにする。 ⑶ 必要最低限の基本的な英文法を定着させる。
講義内容	前半では、これまでに習った文法事項を確認しつつ、日常生活や海外旅行の場面を想定したテキストを使いながら短い会話やり取りを理解できるようにしていく。どのような言語も「会話」は、キャッチボールと同様に双方が発話しなければ何も進まない。そのため後半では、自分自身の口で英語を発するという行為に慣れ、自分の考えを簡単なフレーズで伝える練習をしていく。また発音やアクセントにも留意しながら通じる英語を目指す。

講義スケジュール

	タイトル	内容
第１講	イントロダクション	授業の概要と進め方
第２講	Part１：Lesson 7-10	依頼・許可（Would you…／ Could you…）
第３講	Part1/2：Lesson 11-12, 1-2	聞き返す時・相槌の表現、＊発音と抑揚について
第４講	Part２：Lesson 3-6	自分から話しかける・お礼・励まし
第５講	Part２：Lesson 7-10	共感する・自分の意見を言う
第６講	Part２：Lesson 11-12・復習	気持ちの表現、Lesson2 までの復習
第７講	Part３：Scene 1-3	レストランでの注文（I would like…）
第８講	Part３：Scene 4-6	友人の家へ行く（I would like to…／ I have been… ）
第９講	Part３：Scene 7-9	ショッピング（I'm looking for…／ I'll pay… ）
第10講	Part３：Scene 12-13	病気になったら、人の体調不良を気遣う
第11講	Part４：Scene 1-3	空港・飛行機での会話
第12講	Part４：Scene 4-6	ホテルでの会話・道を尋ねる
第13講	Part４：Scene 7-9	交通機関を利用する・お勧めの場所を教える
第14講	Part４：Scene 10-12	観光地で・トラブルに遭ったら
第15講	まとめ	場面別英会話の応用方法

指導方法	日常生活や将来の業務で使える簡単な英会話表現を身につけるため、⑴テキストとなる資料を参考にしながら使い易いフレーズを繰り返し発話しながら練習をする（ペアワーク・グループワーク有り）。⑵必要に応じて文法事項の復習をする。⑶単語などの小テストを繰り返し行うことにより、英会話に必要な語彙を増やす。
事前学習	分からない単語などは授業前に調べておくこと。自宅で学習する際は、できるだけ音声を聞き、声に出して発話（音読）練習をすること。1 時間 30 分程度の学習時間が目安です。
事後学習	文法事項などで分からない部分は放置せずに遡って復習をすること。定期的に単語テストを行うので、８割以上の得点を目指して学習すること。1 時間 30 分程度の学習時間が目安です。
成績評価方法	本試験(筆記試験)：50(%)平常点：小テスト：20(%)、授業内課題 30(%)。 授業への積極的な参加を重視する。いずれも、受講者数により変更の可能性がある。
テキスト	井口紀子『１から出直し書き込み式英会話 BOOK』成美堂出版、2008 年（基礎英語・共通テキスト） なお、このクラスでは p.20 からスタートします。
参考書籍	授業内で、適宜紹介する。

実務家教員による授業		教員経歴	

特記事項	プレイスメント・テストによるクラス分けをします。必ず指定クラスで受講してください。 受講者のレベルに応じて、内容や速度に変更が生じる場合があります。

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年期	単位数
基礎英語２	日常生活で使う基本表現	福山　圭介	１年次前期	1

科目区分	基礎	キーワード	英語であいさつ、自己紹介、日常会話、感情表現

ディプロマポリシーとの対応	1.　時代や社会の要請に対応できる能力
カリキュラムポリシーとの対応	1.　一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける
事前に受講するとよい科目	特になし
オフィスアワー	授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。
講義の目的	高等学校までの文法・読解中心の英語学習ではなく、音声と会話表現を学習の入り口とすることで、１からの英語習得を目指します。英語に対する抵抗感を取り除き、外国語を習得する楽しみを受講生に見出してもらいます。
到達目標	簡単な会話表現に慣れ親しみ、英語圏への個人旅行やホームステイができるレベルを目指します。
講義内容	日常生活の様々な場面でよく使われる基本フレーズを説明します。習得したフレーズを基盤とし、別の語彙をプラスすることで会話のレパートリーの増やし方を学びます。

講義スケジュール		タイトル	内容
	第１講	オリエンテーション	授業方針の説明と簡単な聞き取り問題
	第２講	基本の英会話①	出会ったときのあいさつ / 初対面の人と話す
	第３講	基本の英会話②	人を紹介する / 別れるときのあいさつ
	第４講	基本の英会話③	お礼を言う / おわびする
	第５講	基本の英会話④	依頼する / 許可を求める
	第６講	基本の英会話⑤	賛成・同意する / 反対・否定する
	第７講	基本の英会話⑥	聞き返す / あいづちをうつ
	第８講	日常会話フレーズ①	話しかける/ お祝いを言う
	第９講	日常会話フレーズ②	励ます / なぐさめる
	第10講	日常会話フレーズ③	意見を言う / 苦情を言う
	第11講	日常会話フレーズ④	あいまいに答える / 困ったとき
	第12講	日常会話フレーズ⑤	うれしい・楽しい / 腹立たしい
	第13講	日常会話フレーズ⑥	感動する / 驚く
	第14講	まとめの演習①	これまでの復習演習
	第15講	まとめの演習②	これまでの復習演習

指導方法	上記の講義スケジュールに沿ってテキストを進めていきます。テキスト以外にも英語のクイズやTVドラマの聞き取り、歌の歌詞の解説などを行います。
事前学習	事前に目を通しておくべき映像資料などを授業内で指示します。（目安 90 分程度）
事後学習	授業の理解度を確認するための課題問題があります。授業をしっかり復習して解いてください。（復習と解答で 90 分程度）
成績評価方法	本試験 50%＋平常点(課題点)50%
テキスト	井口紀子『1 から出直し書き込み式英会話 BOOK』成美堂出版、2008 年
参考書籍	特に指定なし。授業内で適宜紹介します。
実務家教員による授業	教員経歴
特記事項	テストによるクラス分けを行います。指定されたクラスを受講して下さい。

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年期	単位数
中国語Ａ	中国語基礎コミュニケーション	李　婧	１年次後期	1

科目区分	基礎	キーワード	ピンイン、四声、声調変化、自分のことを表現する中国語

ディプロマポリシーとの対応	1.　時代や社会の要請に対応できる能力
カリキュラムポリシーとの対応	1.　一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける
事前に受講するとよい科目	特になし
オフィスアワー	授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。
講義の目的	本授業は､中国語を使用した基礎コミュニケーション力を身につけることを目的とします｡政府が 2030 年の訪日外国人旅行者数 6,000 万人を目指していることから、今後、中国語圏からさらに多くのインバウンドが見込まれます。これを踏まえ、鉄道・交通業界を目指されるみなさんが将来業務において活かせるような中国語スキルの基礎固めを行います。
到達目標	①　中国語の発音記号（ピンイン）を理解した上で発音し、読み書きができ、簡体字も修得する。 ②　中国語の基礎文法が理解できるようになる。 ③　自分のことを表現する中国語を理解し、使えるようになる。 ④　生活に身近なものを表す中国語の単語を言えるようになる。
講義内容	テキストに沿って、発音と単語・文法を積み上げていきます。具体的には、第 6 講までは発音のポイント説明と解説、発音練習を行います。第 7 講以降は、テキスト本文の朗読、文法の説明と解説、会話練習を行います。適宜、映像や写真なども使い、中国の歴史・文化や人々の生活に関心を持つ機会もつくりたいと考えています。また、交通・観光場面で用いられる中国語も紹介します。

講義スケジュール		タイトル	内容
	第１講	ガイダンス	中国語イントロダクション、教室で使う中国語、数字、他
	第２講	第一課	発音（声調、単母音、複母音）
	第３講	第二課	発音（声母表、無気音と有気音、そり舌音、他）
	第４講	第三課	発音（鼻音[-n,-ng]を伴う母音、またしても消える e、他）
	第５講	第四課	発音（3 声＋3 声→2 声＋3 声、bu［不］の声調変化、他）
	第６講	第一課～第四課のまとめ	発音の復習（日本人の苦手な音、声調変化、他）
	第７講	第五課：どうぞよろしく	文法（人称代名詞、挨拶ことば、“是[shi]”、“吗[ma]”）
	第８講	第六課：お名前は	文法（姓名の言い方、“呢[ne]”、呼びかけのことば、“吧”）
	第９講	第七課：ご出身は	文法（指示代名詞、“的”、“都”と“也”、動詞述語文）
	第10講	第五課～第七課のまとめ	重要文法事項の復習
	第11講	第八課：飲み物は	文法（疑問詞、助動詞の“想”、反復疑問文、“喜欢”）
	第12講	第九課：おいくつ	文法（数詞、年齢の言い方、量詞、“有”）
	第13講	第十課：和食はいかが	文法（“过”、“请”、“还是”、形容詞述語文）
	第14講	第八課～第十課のまとめ	重要文法事項の復習
	第15講	総まとめ	第一課～第十課までの重要事項の復習・確認

指導方法	テキストに沿って進めていきます。必要に応じ補助プリントを配布します。一回の授業のおおまかな流れとしては、前回の復習→その日のポイント解説→単語の確認→テキスト本文の読解と朗読→文法説明と解説→会話練習→まとめの順で進めます。適宜確認テストを行います。
事前学習	授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。
事後学習	授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。
成績評価方法	本試験（筆記試験）：50%、平常点（小テスト・授業内課題・発言）：50%として、総合的に評価します。
テキスト	『日中いぶこみ交差点』（2017）、相原茂・陳淑梅・飯田敦子著、朝日出版社（ISBN：978-4-255-45286-9） （※エッセンシャル版［青色の表紙］ではなく、通常版［緑色の表紙］を入手してください）
参考書籍	授業内で紹介します。

実務家教員による授業		教員経歴	

特記事項	受講生の状況や希望によって授業進度などを調整する場合があります。

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年期	単位数
中国語Ｂ	中国語基礎コミュニケーション	李　婧	２年次前期	1

科目区分	基礎	キーワード	助動詞、補語、数字（年月日、時刻）などを使った中国語

ディプロマポリシーとの対応	1.　時代や社会の要請に対応できる能力
カリキュラムポリシーとの対応	1.　一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける
事前に受講するとよい科目	中国語 A
オフィスアワー	授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。
講義の目的	中国語 A に続けて、みなさんが将来業務において活かせるような中国語スキルの基礎固めを行います。さまざまな場面で使用される中国語の表現を学び、中国語での基礎コミュニケーション力を養います。また、これまで学んだ事項を踏まえ、中国語基礎文法の完成を行います。同時に、中国社会や日中異文化コミュニケーションについて理解を深めていくことも目的にします。
到達目標	① 基礎的なコミュニケーション中国語を聞き取ることができる、発話できるようになる。 ② 基礎的な文法構造や単語で書かれた中国語の文章を読めて書けるようになる。 ③ 辞書や参考書を使って自ら中国語の学習を継続していける力を涵養する。 ④ 中国語検定準 4 級に合格できる中国語力を養う。
講義内容	テキストに沿って、テキスト文の朗読、文法の説明と解説、会話練習を行います。中国語の簡体字・文章を書けるように練習を行います。適宜、映像や写真なども使い、中国の歴史・文化や人々の生活に関心を持つ機会もつくりたいと考えています。また、交通・観光場面で用いられる中国語も紹介します。

講義スケジュール

	タイトル	内容
第１講	ガイダンス	中国語 A の復習、年月日・曜日、他
第２講	第十一課：家庭訪問	文法（助動詞の“要”、主述述語文、比較の言い方、他）
第３講	第十二課：買い物	文法（助動詞の“可以”、動詞の重ね型、方向補語、他）
第４講	第十三課：道案内	文法（“怎么”、前置詞の“离”、“从”、“往”、“得”、他）
第５講	第十四課：中秋節	文法（年月日、曜日の言い方、“快～了”、“了”、他）
第６講	第十一課～十四課のまとめ	重要文法事項の復習
第７講	第十五課：食事の前は	文法（時刻の言い方、時間量の言い方、禁止表現“别”、他）
第８講	第十六課：手作り料理	文法（助動詞の“会”、結果補語、“不”と“没”、他）
第９講	第十七課：カニの季節	文法（助動詞の“能”、前置詞“在”、“再”、可能補語、他）
第10講	第十五課～十七課のまとめ	需要文法事項の復習
第11講	第十八課：スキー場	文法（様態補語と程度補語、前置詞の“用”、“一下”、他）
第12講	第十九課：おみやげ	文法（“有点儿”“一点儿”、進行の表し方、“是～的”、他）
第13講	第二十課：空港まで	文法（“把”構文、“被”構文、存現文、“祝”祈る言葉、他）
第14講	第十八課～二十課のまとめ	重要文法事項の復習
第15講	総まとめ	第十一課～第二十課までの重要事項の復習・確認

指導方法	テキストに沿って進めていきます。必要に応じ補助プリントを配布します。一回の授業のおおまかな流れとしては、前回の復習→その日のポイント解説→単語の確認→テキスト本文の読解と朗読→文法説明と解説→会話練習→まとめの順で進めます。適宜確認テストを行います。
事前学習	授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。
事後学習	授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。
成績評価方法	本試験（筆記試験）：50%、平常点（小テスト・授業内課題・発言）：50%として、総合的に評価します。
テキスト	『日中いぶこみ交差点』（2017）、相原茂・陳淑梅・飯田敦子著、朝日出版社（ISBN：978-4-255-45286-9） （※エッセンシャル版［青色の表紙］ではなく、通常版［緑色の表紙］を入手してください）
参考書籍	授業内で紹介します。

実務家教員による授業		教員経歴	

特記事項	受講生の状況や希望によって授業進度などを調整する場合があります。